

反動の嵐に抗して！

2011年
5月31日
No.13

JR 東海労働組合
台車検査車両所分会
発行者 西村泰弘
編集 教宣部

御巢鷹山慰霊登山

5月26日～28日にかけて、航空安全会議が主催する日航ジャンボ機が墜落事故を起こした群馬県上野村にある御巢鷹山へ慰霊登山に参加しました。慰霊登山の当日は台風2号の接近もあり曇りがちの天候でしたが、雨に降られることもなく無事慰霊登山を行うことができました。事故現場は薄霧が立ち込めていましたが、急斜面のいたる所におびただしい数の墓標が並んでおり犠牲者がいかに多かったことと、また地面には飛行機の残骸と思われるジュラルミンやプラスチックの破片も見つけることができ、事故の壮絶さが伝わってきました。



日航ジャンボ機墜落事故とは1985年8月12日、羽田空港から大阪伊丹空港へ向かっていた日本航空のジャンボジェット機123便が、相模湾上空で後部垂直尾翼が破損し迷走飛行の末、群馬県御巢鷹山の峰に墜落した事故で、乗員・乗客521名の尊い命が奪われた航空機事故最悪の事故と言われており、今年の8月で26年を迎えます。

事故現場を案内して下さった航空安全会議の芦沢さんは、事故原因について運輸省が発表した「ボーイング社が修理した圧力隔壁の修理ミスが原因」という最終報告書に疑問を持っておられ、垂直尾翼の方向舵に構造的欠陥があったのではと現在も事故原因の究明を行われています。そして、事故につながる小さな事象でもしっかりと会社に伝えること、それができるのが『労働組合の役目』でもあると言われていたのが印象的でした。

私たちは今後も安全にはこだわって会社に物を言っていかなければなりません。そして責任追及では決して事故を撲滅ことはできません。真の原因を追及していくためにJR東海労と共に声を上げていきましょう！